

# 平成27年度 二島中だより

平成27年4月30日

北九州市立二島中学校

校長 森 隆

No. 2

春暖のみぎり、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

さて、二島中学校の生徒たちは、新たな年度がスタートし、3週間が過ぎようとしています。早いもので、新しい標準服に身を包んで入学した1年生もすっかり慣れて中学生らしい顔つきになってきました。2・3年生も新しい学級にも慣れ、日々充実した学校生活を送っています。

## ○ 4月10日 「新入生歓迎会」

生徒会の生徒たちが心を込めて、開催した歓迎会です。新入生に中学校生活を分かってもらおうと、春休みから準備に取り組んでいました。

【掃除の場面：清掃活動の大切さを説明】



【英語の授業：小学校とは違う教科担任制の説明】



## ○ 4月22日 「1学年で道德の授業」

北九州市戸畑区で生まれ育った「宗 左近」氏は、10万人の人が亡くなった第二次世界大戦の東京大空襲で、自分の母が目の前で焼け死ぬという辛い体験をしました。1967年に刊行された長編詩「炎える母」は、衝撃的で、広く多くの方に読まれ感銘を与えました。その戦争の悲惨さを訴えた「宗 左近」氏の生い立ちから生き様、戦争時の心情などを推し量りながら、命の大切さや平和の尊さについて学年で考えました。大勢のいる中で、多くの生徒が自分の考えや意見を堂々述べることができました。

そして、NHKより道德の授業で真剣に戦争について考えている生徒の姿をテレビで放映したいという依頼を受け、この日は授業にテレビカメラが入りました。放映は、4月30日(木)の18:10~19:00NHK「ニュースブリッジ北九州」の約5分間の特集の中で、2分程度取り上げられる予定です。

【道德の授業を真剣に耳を傾けている生徒達】



【「母と空爆にあう」宗氏の体験の説明】



【しっかりと意見発表ができる生徒の姿】



【NHKのインタビューに答える生徒の姿】



○ 4月23日 「読書の日」

1・2校時にじっくりと読書する時間を取り、読んだ本の紹介カードを作りました。読書は、心の栄養だと言われます。読書を楽しみ、豊かな心をもつ人物に成長してもらいたいと思っています。

【真剣に読書する女子生徒】



【真剣に読書の感想をかく男子生徒】



○ 4月25日 「1・2年生の授業参観」

先生方は、1時間の授業で生徒に伝えたい内容を精選し、分かる為の授業を工夫して指導しています。

【1年1組：数学】



【1年4組：家庭科】



【1年5組：保健体育】



【2年1組：社会】



【2年2組：音楽】



【2年3組：国語】



## ○ 4月25日 「3年生の修学旅行・進路説明会」

3年生にとっては、一生の思い出に残る修学旅行になることを祈っています。また、進路説明会では、将来へのステップとして重要なお話がありました。生徒はもちろん保護者も真剣な眼差しで聞かれています。

この後、多目的ホールで、PTA総会が行われました。PTA活動では、PTAの江藤会長を始め、役員や委員の方々に本当にお世話になっており、心から感謝しています。

### 【修学旅行説明会】



### 【進路説明会】



※ 進路説明会の最後に、将来の夢や希望の実現に向けて、重要なポイントをお伝えしました。

- ① 毎日の健康的な生活リズムを保つことが大切です。栄養バランスのとれた食事と十分な睡眠、適度な運動は、元気、ヤル気、根気をもたせるための基礎となるものです。朝食を抜いたり、夜10時を過ぎて携帯を扱って夜遅く寝たりすることは、大きなマイナスになります。
- ② 進路について、自分の問題として真剣に考えることが大切です。配付した説明会の資料を熟読し、先生や保護者の意見を聞いて、高校や職業について詳しい情報を集めましょう。その情報を基に、「自分が進路をきめる」ことが重要なポイントです。

## ○ 生徒会による「あいさつ運動」と「オレンジリボン運動」

生徒会執行部が毎日自主的にあいさつ運動をしています。朝、8:00から正門に立って登校する生徒に爽やかなあいさつをしています。

二島中学校では、生徒会が中心となってオレンジリボン運動を展開しています。中には、生徒会執行部のメンバーからオレンジリボンを受け取る生徒の姿も見られます。本来は、「子ども虐待防止」のための「オレンジリボン運動」ですが、本校では「いじめ防止」の運動として取り組んでいます。いずれも「人を大切にする：人権尊重」という共通の意図があって行っています。教師が発案したのではなく、生徒たちが主体となって行っている活動だけに、大きな価値があると考えています。

(詳細は次頁に掲載)

### 【あいさつ運動】



### 【オレンジリボン運動】



## オレンジリボン運動について

生徒会執行部を中心に広がっている「オレンジリボン運動」ですが、元々の由来は、次のようなことです。

2004年、栃木県小山市で3歳と4歳になる二人の可愛らしい兄弟が父親の友人から再三にわたって暴行を受け、息も絶え絶えの状態、橋の上から川に投げ込まれて幼い命を奪われるという痛ましい事件をきっかけに、全国でオレンジリボン運動が始まりました。

私たち児童虐待防止全国ネットワークは、全国に広がったオレンジリボン運動を大切に大きく育てるため、2006年よりオレンジリボン運動の総合窓口を担っています。「子どもへの虐待をなくしたい」という志のもとに、全国で共通したシンボルとするために、目指すべき目標（オレンジリボン憲章）を定めました。オレンジリボンが、たくさんの皆様の心に届きますよう、オレンジリボンが子どもたち、そして子育て中の親子の心を包み込みますよう、「子ども虐待防止オレンジリボン運動」に、ぜひご協力をお願いいたします。

(NPO 法人児童虐待防止全国ネットワーク「オレンジリボン運動公式サイト」より)

『オレンジリボンマーク』は、元々「子ども虐待防止」の啓発という公益目的のために使用されているものであり、いじめ防止だけのために使用されるものではないという事を確認しておきたいと思います。また、『オレンジリボンマーク』は、すでに商標登録されている為、昨年度末に「児童虐待防止ネットワーク」に、次のような内容で、オレンジリボン使用許可の申請をしたところ、快く承諾して頂きました。

子どもへの虐待は、力のある者が力の弱い・立場の弱い人に対して行うという意味では、いじめと同じ行為です。つまり、私たちは「人に愛情を持って接する」「自分を大切にするように我が子でも他人でも大切にしていこう」そんな人権尊重の精神が根底に無くてはならないと考えています。そこで、中学生ができる最も身近なことが「いじめ防止」ですので、この運動を通して二島中学校の生徒に、人権尊重の精神を強く持ってもらいたいと考え、オレンジリボン運動を展開します。

そこで、「いじめ防止」の運動の意思表示として、生徒会執行部が始めたオレンジ色のリボン運動ですが、このリボンを胸につけることで、いじめ防止の第一歩となります。

### ○ 「オレンジリボン運動」 ～ 生徒会より ～

僕たちは「いじめ防止」の運動の意思表示として、オレンジ色のリボンを作りました。このオレンジ色は親しみのある色で、人間関係をスムーズにするという効果があります。また、子供たちの明るい未来を表す意味もあるそうです。

このリボンを付けるのは強制ではありません。このオレンジリボン運動の趣旨に賛同し、「いじめをこの二島中学校からなくしたい」「いじめは反対」と考える人はぜひ付けて下さい。

この活動は皆さんの協力が大切です。迷っている人はぜひ参加して下さい。